

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



2917
6

あきそりとあままと。あひつて密もす。夜
ごと日ごとのくまがまひ。かべつゆ。山房の不
行せき。ハテとよこらとらものり。ああよつき
と里の金ころもできうけとりあき。そまに
切とふと。はやどうの見うけ。そまに今
よひよつと。梅川つまとのあもく。馬を
からて枕ともす。山房のうとくよき。さき
よとこ五十両。耳がそらくて三百両。新まちの観

かくこそ。梅川より園をうの替がぬき。
そくまのうすすがら。の銀ハよでらす。逐うけ
らす。ひ月の春暉。もとあはぬどりよ。題す。
あまととまくうてふてんとまくハ郎。まゆど。言
号のあまねどく。病氣とのすまきのてりと。ざ
ぞとあまぬど。八角。まゆく中。かと。若年。お
の忠。まゆの。左。先達。が。いと。け。左。任職。まゆ
左。勘定。まゆ。左。じ。まゆ。又。二。左。左。ち。さ。などの



せうき。わんざく。まむく。まむ。こそ。せぐ
せうき。三方四方。ひ跡。平。う。見。て。よ。ひ。き。う。け。そ
ま。と。ぬ。く。く。ま。う。く。こ。の。ま。え。と。と。の。も。忠。ま。う。ら
を。く。こ。更。と。あ。わ。く。や。く。銀。ハ。ど。く。左。の。う。く。
ハ。左。あ。ま。の。左。の。う。く。で。ま。ま。の。人。間。こ。う。く。の
こと。尺。う。か。げ。ま。う。く。駄。平。う。ま。と。ご。や。あ。け。う。く。
か。び。と。あ。が。く。め。ま。と。う。も。あ。ま。く。コ。け。く。ご。う。く。
ま。と。何。と。そ。ち。と。う。あ。く。あ。ら。と。お。ま。ま。の。左。

かんごう。おきびるままでハ郎三歳どりかへよ
らとて序戯の。苦勞すまひ。店家脇があつ
ぎぬまくと。ものうべ。梅川どりと奥へるよ入
る。よきとく。おもむく。よくよのむ。ハ郎
きじみ。せめて跡平が狀てえく。すきだくの忠義
のを。おこゆふとひかる。差てうひとく
ゆく。おもむ。おせぐ。おもくづらと定めうる。まくこゑ
ひとまつると跡平。ハくちとおもむく。おもむく。跡平アヒド

昭和九年
七月六日
晴末

ろくせい。この跡平がせんとハギ理と忠義とあん
ありよすてのち。コレもきぬどみ。今免めらか免
めぬ。よかうと。被せん。ひとそくとおどりむす。
勤しく。せまつて。薦方えまつて。子とて。もろ
うきと。は家のうち。ハ君うどりて。うとて。お
ハ郎三歳と女ますせんと。うとて。おどり
あひやのうち。おのやうと。あらうどり。
まうあひと。婚事と。まううちよ。ハ郎三歳と

はるとりふがのすゝからてこうつて。おとづれ
すまの船と雪をもよよあらむかひ。そま
ゆふとそせぬ平よのまかして。おまふねと
アセム。えくぶのうよひく。金と捨て
あひふとぞハ那まぐらはせし。コレハ那
まく。子中までもかくもまざる。せめて捨
てのこがむすめ。てけよとつてやうて下さ
て世の中よこよどき。子の見まことつゆの、

せらきのと忠くさぬハ那まぐらのま
うと。想と大せうきつめ。苦勞とうむと姉のくも。
孝行つみてんざわら。ふくよの子と捨
て。まくみくわざりあとたゞ別らもせのうり絆
とすと。たゞとトさる。ト理と美理とて。ま
まざる。あらも縁のあらありよ。令下でくが松草の
はやうわうたをさげて。おまくはそもくさくみて
まく。そらうあまくがまことのとくえう。まくみ

とてえすが日まで、おまへから
あへとこまづく。おまへもくら
こゑ。おねえ姉さんとくらり
みそ。うきよもつて、病の
船。おこへああよ。おちふ
とき。そせうて、かく体
え。おこへよだちがあひ
まく。おこへそて、まく



あらむち。あらやうへんを
さす。おまへふとおまへ。
せんじせんへんをびくふぞ。
姉のあうだまうとくとく
き。「子のううひのよ金を
きのあまへのあまへ」
こむへできとせう。姉の
こうげでもきの本妻おとこを

てうけりあたこもお花へば姉がわらへうけと別家ふ
えやでと下家の榮公見せよませよまと高きもあ
とくさんよのみとよせ。親臣取便職さぬへ勤め高麗
のちきびことやあげてば跡草きの忠義すと
のあうめ。ナアこと八郎もとつゆつてすうのをさう、
後よりまご重きうすみ。さうとひくと公喜つへ
てうとう香具や豚平。そのあんてひと波くべ今と
そむき入行儀さぬへやあげ。ごくうるのをうごく

ナ一聲のかんざう。ハ吉よしのあやがてひゆ
けんでその人とまくとてこそ。えみますきと
のすみ。尼びあくすの足くし。妻よもじくとく
てか邪よ。ドレかくとくとくとくとくとくとく
の母紀。門口よねと。サ「其と銀ハ今こそかんざう
うちへこモト。うちへ這のうそ。サ「さうとまもとくふ。
うやうや。建著うと。ようぶとすまとあきとる。銀ハハきの
くまと銀「さかんざうとくとくとくとくとくとくとくとく

はまゆの姫店
せまくえもとよ
よやまするばくと
きくすゆうとゆ
けひとかこをやく
狼見店とお惣ざく
物がうできひ。十三の
年からきくことあひ



とさんせんごとくみがまと
あてひつけ身や食ふをそな
きの書すで。とくまつてり。
さうきくからのことごとひ。
駄車やぐらのちうぎのむと。と
八右のまの店だいをうあく。何
生でさうてとせぬがよろこびくの
事であらうぞ。サモのまこと



さうのこひよ銀へがからうも見ゆの後脚はうづ
ころ。今こそやうべのがざり。この梅川といふじ
實のむきあ。あまみと銀へら足底の実子をすで
くも銀へそえきアノちよどりと。ちよく足すうと。
えきうのうめとおぢて。そがうる形^きふちうとふ。
あくよみうそあくへと。八右衛門^{ハセドウ}とまと
うち^{ハ右}半^ミとよえんかあぢゆの。かよももく

ものとて世人^{にし}がむらもうく。社^{いのち}のとをも見
裏^{うら}つて^てこ^ち思^{おも}ひともど^よ。かうようとびと、
ひづかの。銀^{ぎん}の思^{おも}ひつみけや^{せん}みすつみ
と。あくよみーといたまーととあくよみーと。あく
よみーと。あくよみーととあくよみーと。あく
よみーと。あくよみーととあくよみーと。あく
よみーと。あくよみーととあくよみーと。あく

金の日^あけにきてかづませう。若どえみの家
のあさりとくで。ハ郎も家督のあらわ
きの本妻^{おとこ}あつまへてうけ。は左^{ひだり}ハ太和の左所
二の歸^き、乐^{ゆき}居^す親^{おや}を名^なふそなまよ。孫^{まご}を
とわくとあ姉^{あね}へも花^{はな}とりやとぞ成^{せい}人のうへ
て六。齊^{さい}良^らの家^{いえ}が立^{たつ}。ハ郎ももよぶん^{ぶん}と
大^おきの拳^{こぶし}で賣^{うる}實^{じつ}をもとめちがう。すなは古^いの
むかの仰^あ。うきびと遠^{とお}のゆうと。うきび

きハ左^{ひだり}のまくともとあらざの波^{なみ}ぞあら
すあらぞせり。豚^{いのし}キもうきとさうだうるく^{あく}
人のこの豚^{いのし}平^{ひら}が家^{いえ}をもととくざきとく。こくよす
き死^し身^みのよろとび。こちまくせめうくせす。後^{うし}
の駕^かと駕^かとすととりへた。ハ左^{ひだり}の孝^{たか}行^はじ
まくわくこう太^おもにうけ。貞^{じやう}女^{めの}の駕^かとまくわく
ちうまくのむかうともよ。怪^{あや}美^{うつく}女^{めの}本^{もと}
あま^{あま}。さくらん中^{なか}ふうきわがふくそ。妙^{めう}タのう

まづりにハ思ひ乍へて。ばんのまづりてさき
さき。そまく赤年の只くあくも。しも忠之
さる。喜びえみ。伊織さるへ内舉行だからじ。梅川
せのも男達を多く奉行つゝ。人よこすとお
ま貞女まく不立うぶ道悪ひわきのこの筆
がことぶ。かるくぐわらひてそぞうとや。浮舟
よもじくえもくまもきぬハそぞくともく
きく「えうま」ときときよつけ。どうぞとくさん

まくしてよろみてんぐまくせト。からぬ吏とく
きの神やかとの内利益で、まくまく喜んで
か。ここが身のせらうきうちこすとうわうするぞ
もじうへき。千秋万歳の内督の頭とくえまう
と。お町のくらはや義政郎。あとまづいとくらは
どん八葵江の佑吉。まくめがくとくまう。
象やく太丈さる。おまの身度のいちがあた。
ちうでくまくまうで。曲輪じぬきよまくまう。



あれよしとひふやあよつとひて來ま
喜イヤ太夫こゑあかまくさんのおうけのゆだき
あすうとまらうち。うの間まようのづべ。ま
あらぬ顔の半身たんじんとく曲まげがる。ひへにこじーが
夢中むちう佐左さざわのでりどどそ。そのゆう。長太郎ちやうたろう
こうきうの吏と。はうひだくらめう。こねぢかくく、
あごく。うえどもくうをとも生なのとんハ。あひれ
酒さけとくぢちうの夢ゆめみみ。ちく
まきとくぢちうの夢ゆめみみ。忠ちゆうきさみの脣くちば

送おくり狼おおかみともかひのわう。そとぬすとも生なのもの。
うらみでごみてよきうぞ。ハ〜とつせういふす
勤きんの。せ。幾次郎いくじろうくすとくちう。せもん。うそ
幾いく梅川うめがわどり。年季ねんき登のぼり。めでくくら前まへ
また。こくせんが母おやぢうけうて。サさくよば母おやぢ
うすらもく。今までも三さんまさんかくまかくまむせ
よるよく。あくくも。かくくハ放ほひよじじと
下さきり。喜こゑイヤモチ生なのううて。六ろくびりま

せん。あくまでもうす。かくして。す。内蔵のエテ
きもとナ。とつものも。八郎。紙入り。二分
金。二分。ひざ。うび。ゆ。佐吉。くら。無。一
あくまでもう。さ。佐吉。う。山。の。う。実。の。う。ふ。
あくまでもう。山。の。う。実。の。う。ふ。と。う。ち。く。
あくまとも。上。六。幾。次。郎。も。そ。く。よ。そ。を。き
そ。の。うち。あ。い。生。き。ト。三。人。お。つ。と。坐。行。路。半。ハ
今。从。教。を。教。付。種。て。が。う。る。ま。す。ハ。右。の。ち。左。の。左。の。左。
が。縁。左。の。と。会。見。か。く。ま。も。ま。く。う。り。へ。お。も。う。

続。公。の。お。も。ひ。姉。の。お。び。う。う。う。う。う。う。
忠。ま。わ。う。お。ま。う。古。ら。く。か。ぎ。う。錦。の。夜。裏。か。ぎ。う。
え。ん。す。お。ま。う。う。お。ま。そ。相。生。妹。背。中。か。妻。お。妻。、
左。左。あ。の。ま。の。うち。娘。一。ま。と。母。だ。う。つ。あ。ま。ハ。左。
銀。公。の。道。う。ぎ。死。あ。ま。の。母。と。引。う。て。治。母。一
孝。行。う。ぎ。し。う。た。縁。と。え。そ。お。合。縁。雪。の。降。厚。塗。
む。う。ご。う。の。積。う。ま。意。の。な。う。う。き。移。移。の。家。や。お
と。や。の。家。も。ま。で。香。み。ぞ。う。そ。の。梅。川。も。香

風やと。因でて此春がむすをもふ。

因を度かやと。喜むもう。

あまうよ。あきのゆき
合縷季降亭林後編下之卷終

